

第1回四日市市大学構想策定委員会会議録（要旨）

1. 日 時 令和5年5月24日（水）午後3時30分から午後5時15分まで
2. 場 所 本部員会議室
3. 出席者 （策定委員会委員）
谷口 研二委員長、近藤 元博委員、加藤 真紀委員、
種橋 潤治委員、堀 加奈委員、舘 英次委員
（アドバイザー）
一般社団法人国立大学協会 審議役 玉上 晃
（四日市市）
森市長、荒木政策推進部長、渡辺政策推進部理事
矢澤政策推進課長、加藤政策推進課副参事
（事務局）
櫻井政策推進課付主幹、井上政策推進課主幹、河合政策推進課主幹
4. 議事概要
 - (1) 委員の委嘱
市長から各委員に委嘱状を交付。
 - (2) 自己紹介
各委員から自己紹介を行った
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 大学を取り巻く現状について
（一社）国立大学協会審議役 玉上アドバイザーから、資料に基づき説明を受けた。
○今後大学教育を通じて学生一人ひとりの付加価値を高めていく必要がある。
○大学進学にあたり、2019年度調査で三重県から約4500人県外に流出している。逆に考えれば地域にも需要があると言える。
○国において、今後デジタル、人工知能、グリーンなどの産業に関する人材の育成や理工系大学を設置する目標設定がされている。四日市の大学構想は理にかなっている。
 - (5) 大学構想策定について
 - ①四日市市への大学設置について
 - ②他都市の事例紹介
○大学は地域の人材を育成し経済・社会を支える基盤である。地域のニーズを踏まえないことにはいい大学は造れない。
○産業界だけでなく地域の親御さんの思いも含めて地域の望む人材を将来も

含めて輩出していかなければ長続きしない。

○地域企業における人材の確保が非常に難しいという状況が続いており、四日市の持続的発展を考えると大学の設置が必要である。

(6) アンケートについて

- ・ 県立大学設置にかかるアンケート結果について（参考）
- ・ 新たに実施するアンケート内容について

○企業に聞くときには 10 社でもいいので対面で話をして実施すべき。どういった学生を望むのか採用担当者や現場の方に確認することが重要。

○身についたスキルや身につけたいスキルについて、コミュニケーション力やチームワーク力といった抽象的なものが多く返ってくる。グループで学生の本音を聞くほうが向いている可能性はある。

(7) その他

委員間で意見交換を実施。

○どの企業にとっても必要な人材があって、例えばDXやカーボンニュートラルに資するような知識をもった人材も必要になってくる。そのような人材を企業がいかに育てて、将来に役立つ人材にするのか、全てを大学に求めるのは難しいため、大学と企業がいかに連携して上手く成長できればと思う。

○リカレントは非常にいい市場である。力をつけなければ企業で残っていけないし、転職しようにも採用されない。また、新卒の学生は企業に対するモチベーションはすごく薄れていっている。企業に入るための教育ではなく、力をつけるような教育が今の学生には求められている。

○今の学生は会社が変わることに対するバリアが段々となくなっている印象。転職すると職種が変わったりするので、自分たちが大学時代に学んでこなかったことを学ぶ機会を欲している。そういうところで大学が役に立てばいいと思っている。

○公立という安心感と授業料の安さから公立化は効果大きい。

(8) 今後のスケジュールについて

○第2回策定委員会を7月10日（月）午後3時から午後5時までに決定。

○第3回から第5回策定委員会については、各委員に予定を確認いただき、後日決定することとした。